



Management System News

INTERNATIONAL QA INSTITUTE (NPO 法人 国際品質保証協会)

巻頭に寄せて

IQAI 理事長 三浦 昭夫

CQA/CQE/CMQOE/CRE/CSSBB/CHA/CBA

鳩山総理が就任後 10 カ月足らずで挫屈して菅総理に変わったが、小泉総理時代からの郵政問題、年金問題、沖縄の基地、悪化した近隣諸国との関係などの諸問題のほかに、尖閣諸島に関する中国からの無理難題が加わって、益々大変になるだろうが、他党ともよく協力して頑張ってもらいたいものである。日本は中国からのレアメタルの輸出拒否にも遭遇し、円高、株安と、新たな問題が続出してきているが、その間、スポーツ界では9月下旬になってのイチロー選手が本場のアメリカで 10 年連続 200 安打という前人未踏の大記録を達成してくれた。内野安打が多いと批判している人も多いようだが、相手が内野安打を特別に警戒しているにも拘わらず成功させているのだから見事としか言えないであろう。他には、大相撲で横綱白鵬の連勝記録、さらには四場所連続の全勝優勝。政治・外交の方々にも、イチローや白鵬を見習って健闘して頂きたいというのが国民の願いであろう。

さて、本年 5 月にセントルイスで開催された ASQ の年次大会に論文の審査員として出席した。概要は 7 月 1 日の会員宛に配布した漫遊記のとおりだが、監査部会やFDA 関連グループの人たちとの意見交換と歓談で楽しんできた。左の写真は大会の会場とセントルイスのシンボルになっている Gateway Arch である。前号でもご紹介したように、日本の実力向上を図るため、今年度より、予て懸案の当会独自の QA 監査士の特別講習と認定を始めている。近々コンサルタントの認定も開始する予定である。本格的専門家を目指したい人達は大いに挑戦して頂きたい。

また、入会したばかりの佐藤美由紀会員が、5月の CQA 必勝合格講習会に出て翌月の ASQ の CQA 試験に見事合格された。平素の会社での業務に真剣に打ち込んでおられるのがそのまま反映されてこの快挙につながったものと思う。



ASQ 年次大会の会場
“America's Center”



ミシシッピー河畔にある
Gateway Arch
高さは地上 207 m

目次

巻頭に寄せて	三浦 昭夫	1
CRE、CQA 受験記	都築 臨太郎	2
階段をひとつ上って CQA	佐藤 美由紀	3
リスク管理と品質保証	土平 亘	4-5
戦後の「ことわざ」	石原 隆昌	6
QA 管理体制は現代版「三方よし」	水本 光春	7
事務局から		8
編集後記		8



NPO 法人 国際品質保証協会は、QA (品質保証) に関連する活動を通して日本の繁栄に奉仕・貢献することを目的として 1991 年に設立された団体で、今日まで ISO を含む諸種マネジメントシステムの効果的活用について、わが国の主要機関に対する総合的な支援活動、内部の教育、調査・研究、講習等の会員活動に加え、アメリカ品質学会 (ASQ) の日本支部として国際的にも活動しています。

CRE、CQE 受験記

都築 臨太郎 ASQ CQE/CRE

はじめに

本年3月に、アメリカ品質学会(ASQ)のCRE(Certified Reliability Engineer、ASQ公認信頼性技術管理士)、6月にCQE(Certified Quality Engineer、ASQ公認品質技術管理士)の試験に合格しました。これらの受験についての感想を記述することと致します。

受験のきっかけ

私は日米合弁の建設機械メーカーに勤務していますが、2年前に信頼性関連の部門に配属となり、その頃にCREの資格制度について知りました。その後、勤務先が日米の折半合弁から完全外資へ移行することとなり、アメリカ側の発言権が強くなるのを感じました。日本人でも信頼性関連の知識を持ち、仕事ができることをアメリカ側に示す材料として、CREを受験することにしました。

受験準備

まず、ASQのWebサイトにある出題範囲(Body of Knowledge)に関する説明をよく読み、試験内容を把握しました。それから、これもASQのWebサイトに出ているCREの練習問題を、時間を計りながら解き、全部の問題を解いた後に受験を申し込みました。

信頼性工学の試験ですから、確率計算の問題が多く、関数電卓が必須です。また、信頼性関連の英語の知識も必要なので、英文の信頼性工学の良さそうな本をAmazon.comで買いました。

受験申込み

受験申込みの際に、出題範囲に関連する経歴を英文で記述する必要があり、戸惑いましたが、何とか条件をクリアできました。CREの出題範囲をよく確認したところ、かなりの項目が過去の職種での業務に含まれていたため、受験資格を満たせたのでした。

CRE 受験

東京の試験会場には、外国人の同僚2人もきてい

ました。4時間で150問の試験は忙しく、参考書を参照する時間はほとんどありませんでした。

受験結果の通知は、試験の1週間後にEメールで届きました。

これから受けようとする方々への助言としては、練習問題を全問正解できる状態にしておけば、合格する確率が高いと思います。後は出題範囲の一覧を見て、必要に応じて勉強するとよいです。

CQE 受験

CQE受験の動機は、QualityとReliability両方の知識や能力が必要と考えていたためです。受験準備は、CREの場合と同じ方法をとりました。CQEとCREはかなり出題範囲が重なっており、全体としてはCQEの方が易しいと考えられます。CQEは5時間で160問の試験です。本番の試験では、2時間半程度でひととおり終わり、持ち込みの参考書を見る時間は十分にありました。しかし、参考書を使い込んでいなかったため、思っていたほど参照が捗りませんでした。

CQEについては、時間に余裕がありますので、参考書の該当箇所を早く参照できれば、合格に有利です。また、それほど参考書を使い込んでいれば、参考書なしでも解答できるようになっていることでしょう。



感想

信頼性工学及び品質管理の基礎的事項を理解し、常識的な英語での用語を知っていれば、CREにもCQEにも合格できます。過去1年分の合格者一覧には、CREは韓国で100人、CQEは韓国で160人、中国で120人程度が列記されている一方で、日本の合格者は極めて少数です。韓国と中国の合格者の多さは、グローバル化への姿勢を示していると考えられます。日本の占める位置は縮小を続けており、Customer、Competitor、Companyのグローバル化に適応しなければ生き残れないことを日々の業務で感じます。ASQ有資格者の数が、それぞれの国の将来を暗示していなければよいのですが。

最後に、日本においてASQ資格試験を受験する機会を提供されているIQAI、三浦理事長に謝意を表します。

階段をひとつ上ってCQA

～変わって行く景色～

IQAI 会員 佐藤美由紀, CQA

IQAI との出会い

昨年 12 月、私は見えない力に導かれるように IQAI の HP 上にある「[問合せ先 welcome@iqai.org](mailto:welcome@iqai.org)」ボタンをクリックしました。それがきっかけで、まさか半年後に CQA を受験することになるとは知らず。運命とは本当に奇妙なものです。私が IQAI の HP にたどりついた理由は、「Quality Engineer(以下 QE と呼ぶ)」という言葉で検索をしたらヒットしたという単純な理由です。

当時の私に、自分が QE だという自覚はありませんでしたが、アメリカから来たお客様から「キミは QE だよ」「キミは QE なのだから」としきりに言われるので、「これからはプロの QE を目指そう!」と、覚悟を決めて検索しました。そしてヒットした IAQA のページをよく読み、QE 対象の CQE (品質技術管理士) を受験できそうに思えたので「お問合せ」に至ったわけです。

右も左もわからない私に対し、三浦理事長はとても親切かつ丁寧に様々なことを教えてくださいました。「CQE を目指す前に、CQA (監査士) を受けてみるのが良い。結果はともかく、受験そのものが勉強になる」とも言われました。それで、私は IQAI 及び ASQ への入会と、半年後の CQA 受験を決心しました。

受験対策 ～自分との戦い～

具体的には何をどうしたら良いのかさっぱりわかりませんでした。とり急ぎ、参考書の「ASQ Auditing Handbook」と「Solution Text」を購入し、受験準備を始めました。何とか Solution Text だけはひととおり全問やりきりましたが、そこでわかったのは、「解けたつもりでも、正答率は 6 割程度」「時間配分まで考えている余裕なし」ということでした。5 月に IQAI 主催で三浦理事長による必勝合格講習会というのがありましたので、それに参加しました。

講習会では偶然にも、私のお客様で普段から親しくさせていただいている方と同席となり、楽しく学ぶことができました。そこで頂戴した教材は全部簡潔で平易な英文だけでしたが、秀逸で Handbook の 1/5 の厚さもないのに必要な情報がすべて詰まっていました。私は Handbook をそれ以上掘り下げることをあきらめ、頂戴した教材のどこに何が書いてあるのかを記憶とタ

グで整理することに全力を尽くしました。その際、理事長に教わった「書くことで体が覚える」ということを忠実に実行しました。揺れる通勤バスの車内で、教材の文言を蛇が這うような文字で必死に書き写すのです。これを短時間でしたが毎日続けることで、QA と監査の本質が理解でき、英語の表現に慣れる練習にもなりました。そのことで、当日は教材をいちいち見なくても解答できるようになり、効果は抜群でした。

受験当日 ～時間との戦い～

当日は、「自分は時間配分がうまくできない」という自覚から焦りが生じ、かなり短時間で強引に進めていたようです。解答用のマークシートを全て塗りつぶしたところで、まだ終了時間まで 1 時間もありませんでした。しかし、落ち着いて見直したところ、とんでもなく簡単な問題でいくつも誤答していることを発見しました。冷や汗が出る思いでマークシートを塗り直して、なんとか間に合わせ、後は運を天に任せるのみとなりました。

受験後に実感した「成長」

結果は無事合格でした。でも、あまりにもあっさりとして決まってしまう、今でも実感がわきません。「キミは QE だろう?」と教えてくださいましたお客様が何人も、わざわざアメリカから Congratulations! のメールをくださり、改めてアメリカでの認知度の高さを思い知らされました。



それから数ヶ月、業務上の様々な場面で、あのとき学んだことが役立っていることに間違いありません。Audit に関するだけでなく、現実の会社業務で品質保証における重要で根本的な問題を解決するにあたって、「確かこんな問題を解いた」「今のケースはあのときに解いた問題に似ている」と、問題と選択肢が思い浮かぶことがあります。なんだか周囲の景色が日に日に変わって行くような気がする毎日です。

たったの半年間の準備で、ここまで成長できたことはひとえに、応援して下さった IQAI の皆様やお客様の暖かい励ましと、理事長のツボを得たご指導の賜物です。本当にありがとうございました。今後も研鑽を重ね、一人前の Quality Engineer を目指して前進したいと思っています。

リスク管理と品質保証

理事 土平 亘 (ASQ CQA)

ある不幸なケース

ある会社で、QA担当者が、製造部門から重要部品に外観上の不良が見つかったとの連絡を受けた。QA担当者は製造ラインを停止したうえで、顧客への出荷が予定されていたため、慌てて関連のある全ての製品の出荷を停止するように指示を出し、顧客には納期が遅れる旨連絡した。顧客が遅延理由を訊いてきたので、「信頼性上の懸念があるため出荷を停止した」と答えたら、顧客は驚いて、詳細の説明を要求してきた。

QA担当者が部品メーカーに連絡したところ、過去の経験から、同様の不良は輸送中の不適切な取り扱いなどでまれに発生し、信頼性の問題はないとの見解で、故障解析を行い製造上の問題の有無を確認したうえで対応を決めると連絡してきた。

顧客に説明を求められたQA担当者は、何が原因か判らなかつたが、とりあえず何か報告しなければならないので、在庫にあった未使用の部品を使ってできる評価をやってみた。しかし、問題は見つからず、結論を得ることはできなかった。

そうこうするうちに、部品メーカーから、解析の結果、製造上の問題はなく、輸送中の不適切な取扱いによる影響の可能性が高く、部品の信頼性に影響はなく、外観上の選別を行えば十分であるとの報告があった。顧客も説明に納得し、製品の出荷を再開できることとなった。

さて、晴れて製品を出荷できることになったが、未使用の部品をすべて評価に使用してしまったため、今度は製品の製造ができなくなってしまった。結果として、顧客への出荷がさらに遅延し、また、評価に使用した部品を廃棄するロスも発生し、会社に損害を与えてしまった。

担当者の過ち

担当者は、会社に損害を与える意思は全くなく、それどころか昨今世間をにぎわすリコール問題を防ぐため最善の判断をしたつもりであったが、結果的に、会社に損害を与え、顧客との関係にも悪影響を与えてしまった。どこに問題があったのだろうか。

まず、第一の問題は、発生した問題の影響度合いを正確に把握せず、安易に出荷停止と言う重大な決

定を下してしまったことだ。次に、説明を求める顧客に、非常に重大な意味を持つ「信頼性上の懸念」と言う言葉を安直に伝えてしまい、問題を必要以上に大きくしてしまったこと、さらに、何を評価すべきかわからない状況で貴重な部品を評価に使用して結果的に使用できなくなってしまったこと。これらの不幸な出来事が重なり、会社のためを思って行った担当者の行動が逆の結果を生んでしまった。

リスクの把握

担当者が、報告された外観上の不良の影響度合いを正しく認識していたら、不良に関する情報を収集するために出荷停止の決定前に部品メーカーに見解を求めていたら、出荷停止により会社が受ける影響の度合いを正しく理解していたら、「信頼性上の懸念」という言葉が顧客に与える影響を理解していたら、未使用部品を全て使用することによる生産計画への影響を把握していたら、あるいは、行き当たりばったりの評価から得られる結果が問題解決に貢献できる可能性がどのくらいあるかを理解していたら、会社に与えた損害は大幅に軽減できたことであろう。

これらはすべてリスクの把握に関連すると考えられる。外観上の不良が製品の品質信頼性に与えるリスク、出荷停止により会社が受けるリスクと万一問題のある製品を出荷した場合に会社が被るリスク、「信頼性上の懸念」という言葉を顧客に伝えたときの顧客の受け止め方についてのリスク、未使用部品を使用した時の生産計画に与えるリスクと評価から得られるものとの比較。これらの中にはリスク管理について重要な概念が含まれているので、順に検討してみたい。

リスクについて

リスクについて語るには、まずリスクを定義する必要がある。ここでは、リスクは、「損害または損失を受ける可能性」とする。この定義のもとでリスクの度合いは、

$$\text{リスク} = \text{発生の可能性} \times \text{損害の程度}$$

で計ることができる。

リスクについては、物理的なリスク以外にも、経済的なリスク、感情的なリスク、知的財産に関するリスク等いろいろなリスクがあることを理解することも重要だ。また、あることに関するリスクには、それを行わなかった場合のリスクも理解しておく必要がある。

現在、我々が生活している現代社会ではリスクを避けて通ることはできない。リスクをきちんと把握し、うまく管理することは現代社会での必須のことであると言っているだろう。

(5ページへつづく)

全知全能ではない我々にとって、分らないことがあるのは当然のことであり、そこにリスクが存在する。リスクを評価するということは、分らないことを理解し、その影響の度合いを正しく判断することに他ならない。

リスクの評価

リスクの評価については、(高、中、低)程度の3段階か、(最高、高、中、低、無)程度の5段階の評価で事足りることが多い。発生の可能性、損害の程度それぞれ3段階で評価し、その結果をもとに総合的なリスクを3段階程度で評価し、それに壊滅的な損害を与えかねない「最高」と無視できる「無」を加え5段階程度の評価で十分であると考えられる。

リスク評価と共に忘れてならないのがリスクに伴う見返りの評価であり、何も得られないのであれば、いかに低いリスクであってもそれを取る必要はなく、高いリスクであっても十分な見返りが見込まれるのであれば、リスク低減を十分行ったうえで取るべきであろう。

リスクを取るための過程

リスクを取って成果に結びつけるためには下記のような過程が必要と考える。

- ① リスクの存在を全て明らかにする
- ② それぞれのリスクを分析し、その発生の可能性、影響の度合いを正しく評価する
- ③ 評価結果に基づいて、リスク低減活動を計画し、実施する
- ④ リスク低減活動の効果を定量的に評価する
- ⑤ 見返りを考慮して受け入れ可能なレベルと判断されるまでリスク低減活動を継続する



リスクの明確化

リスクを明確にするためには、まず、全体をリスクが判定できる個々の構成要素に分解しなくてはならない。そのうえで、それぞれの構成要素に対し、何が重要な特性となるのか、どこにリスクが存在するのかを十分理解することが必要である。

リスクの分析・評価

明確にされたそれぞれの構成要素に対して、重要特性を考慮しながら、リスクの発生頻度およびその影響の度合いを評価する。未知の事象で発生頻度も影響の度合いも分からない場合には、まずリスクを「高」と判断し、リスク低減活動を通してリスクを軽減する等の対応が望ましいと考える。現代社会の変革のスピードの中では、リスクが完全に把握できるまで待つこと自体が、機会損失という重大なリスクとなりうる。

リスクの低減

リスクの分析・評価の結果をもとに、高いものからリスク低減策を策定し、優先順位を付けて実行する。リスクの低減策には、「リスクを無くす」、「リスクを減らす」、このほかにも「リスクを転嫁する」という手法がある。「リスクを転嫁する」の代表的な例は、保険である。

リスク低減活動の評価

リスク低減活動の成果を評価し、リスク評価の結果を更新する。この際重要なのは、リスクの低減策の効果を定量的に把握し、客観的に評価することである。

許容レベルの判断

リスク低減活動の結果、全体のリスクが見返りを考えて許容できるレベルになったら、初めてそのリスクを受け入れることができる。許容リスクの判断基準は、最初に決めておく。通常は、全てのリスク要素の評価が、「低」または「無」になった段階でリスクを許容するとよい。また「最高」のリスク評価が残っている状況ではリスクを許容すべきではないだろう。

残留リスクへの対応

リスク低減を繰り返した後、残ったリスク要素に対しては、必要に応じて、リスクが現実になった場合の対応策(contingency plan)を予め作成しておくのが望ましい。既知のリスクに対して、それが現実のものとなるまで手をこまねいて待っている必要はない。

まとめ

現在の急激に変化するビジネス状況の下では、リスクを避けることはできず、リスクを考えていないとしたら、それが会社の存続にかかわる重大なリスクとなりかねない。重要なことはリスクを十分分析し、正しく評価したうえで、許容可能なレベルにまで低減し、そのうえで、残ったリスクを十分認識し、十分な備えをしたうえで積極果敢にリスクを受け入れることである。

戦後の「ことわざ」

会員 石原 隆昌 CQA

「マサカ」が「マサニ」

IQAIに入会して本年末(2010年)で15年になる。2007年4月号まではこの機関誌の編集後記を担当させてもらった。IQAIは今も貴重な勉強の場となっている。編集後記と数回の投稿では理事長から内容の点検を受け、直接伺うお話等で得るものが多くあった。

理事長の言葉を引用した編集後記(2002年4月号)に書いた、『入会初期のころ妙に印象に残っていたのが、「そのうち日本は大変なことになる、発展途上の国々からもバカにされる」というものでした。「マサカ」という気持ちでしたが、「マサニ」となってしまった感があります。』を思い出した。

最近では、「日本衰退」が流行にさえなっているようだ。高度成長時代に「お客様は神様です」、「赤信号みんなで渡れば怖くない」、「わかっちゃいるけどやめられない」というのが流行った。多くの人々が我々日本人の行動の傾向をうまく言い当てていると感じたからであろう。その時代では否定的な響きではなかったような記憶である。

「…神様です」は「付度とおもてなし」に範囲を広げ、「赤信号…」は「集団の力」として、「わかっちゃいるけど…」は「人間の弱さを明るく」受け止められていたような気がする。衰退の原因について様々な議論があるが、勃興の原因と表裏の関係にあるのではないか。

「お客様は神様です」

“Customer satisfaction”(顧客満足)という用語が、ISO 9001 2000年版改訂の初期の素案で出てきた時、真っ先に、三波春夫氏の「お客様は神様です」を思い出した。当方は、この言い回しを「ご利益(ゴリヤク)を期待して顧客の身勝手さも我慢する」という意味に理解していたので、これは規格に馴染むであろうかという感じを持っていたのだが、結局は現在の「customer perception(顧客の受止め方)についての情報の把握」に落ち着いて、安心した記憶がある。昭和36年の舞台での司会者とのやりとりが発端で、前述のような理解を含めて様々に広がったのだが、氏の思いは真剣で深いとのことである。「いかに大衆の心を掴む努力をしなければいけないか、そしてお客様をいかに喜ばせなければいけないかを考えていなくてはなりません。お金を払い、楽しみを求めて、ご入場

なさるお客様に、その代償を持ち帰っていただかなければならない。」(同氏のオフィシャルサイト)

このような感覚(職業観)は、程度の差はあれ、日本人は昔から大なり小なり持ち合わせていると思われる。これは、顧客に対してだけでなく、関係者や上長に対しても広がり、「付度し、おもてなしの心でもって行動すること」に現れて、良い評価を得てきたようだ。逆にこれは、「過度に対応し、本質の周辺で競争し、曖昧な判断基準で行動する」という弊害を助長する結果を生むことがある。「ガラパゴス現象」といわれるのもこの結果なのかもしれない。

「赤信号みんなで渡れば怖くない」

これは色々な場面で使われ、今でも議論が活発なようだ。通常言われる意味:「物事の道理が判り、穏健で節度を持って行動できる人が、集団の中では常識的にまずいことでも見逃してしまうか行ってしまう心理」に加えて、その状況での「赤信号自体の意味への問い」(因みに、大阪、欧州の街では赤信号で渡っている個人は多い)もあろうし、渦中の人には「過当」と「切磋琢磨」との区別は難しいが、「過当競争」の原因でもあり、「保身」、「失敗した時の言い訳」にも使われることがある。「異議」を唱えると「空気が読めないと言われる(最近では、否定的に使われることが多い)ことが怖い」という心理は、全体としてもっと怖い。

最近では、再び「みんなで渡ってしまったので怖いことになった」という結果(衰退を通り過ぎた崩壊)が、あちこちで、見えてきているようだ。

「わかっちゃいるけどやめられない」

これは、植木等氏の父君(浄土真宗住職)からの励ましの言葉で「人間の弱さを否定しない」という意味だったが、別の理解もあり得る。太平洋戦争への過程での種々な葛藤について、発掘又は新視点で、今でも新事実が繰り返し発表されている。「何故分かっていたのに止(と)められなかったのか」という問いである。

これは、最近「技術で優れているのに何故事業で負けたのか」という趣旨の本が書店で目立ってきているように、今日的な問題であろう。70年前と違って未だ渦中の場合もあって生々しいので、負けを認めたくないのか事実を把握できていないのか、はっきりとは判らない。「分かっているから止(と)める必要に気が付かない」のかもしれない。

ある人の定義を思い出した。分っていて悪いことを行う現象を「腐敗」、分っていないで悪いことを行う現象を「退廃」としている。小さな「腐敗」の追求に目が行き過ぎ、「退廃」に気がつかないことが心配だ。

QA 管理体制は、現代版「三方よし」

会員 水本 光春

2008 年秋に発生したアメリカのサブプライム住宅ローン問題に端を発した金融危機の影響は、想像を超える範囲にまで及んだことは多くの人々にとって記憶に新しいことでしょう。悪夢のような日々を経て早くも2年になり審査で訪問した各企業のトップマネジメントの方々から、スローペースではあるが、ようやく危機以前の状況に戻りつつあるという明るさを伴う声をあちこちで耳にすることが多くなってきました。

マネーゲームに狂奔して全てを失った人々には当然の報いですが、健全な顧客の要求に真摯に向かい合いその要求を満たすべく真つ当な事業活動を行っていた多くの経営者にとってはとんだ災難に巻き込まれてしまったことは否めません。そうした状況においても、今回の危機を悲観的に捉えるのみでなく自分達の組織の強み・弱みを再認識し、マネジメントシステム(QA 管理体制)を見直す機会として前向きに捉えている経営者がいることはせめてもの救いです。



そもそも今回の金融危機は「英国病」に苛まれていたイギリスで、サッチャー元首相が1986年に「ビックバン」と呼ばれるイギリスの証券市場の大改革を断行したことに端を発すると云われています。サッチャー元首相の大改革をさらに発展させていったのがアメリカのレーガン元大統領であり、今回の金融危機を招いたその市場原理主義の新自由主義に対し厳しい批判が向けられています。

本来、お金は正当で地道な生産活動(製品やサービスの提供等)において付加価値を付けることによって利益としてもたらされる(産業資本主義)のが本来の姿であると考えます。金融商品という付加価値を伴わず、ペーパーをいじくり回すだけでリスクを顧みず短期の利益を徹底的に追求してお金がお金を生む

(金融資本主義)という正にカジノのようなマネーゲームに嵌ってしまい、麻薬患者のように健全な感覚を失ってしまった結果が今回の破綻ではないでしょうか。

江湖では今回の金融危機によって、いわゆる「金融資本主義」は破綻したともいわれていますが、麻薬それ自体も活用しだいで良薬になるように「金融資本主義」もすべてが悪いわけではないので、それ自体を非難することは健全とはいえないと思います。企業は株主のものと決め付け、労働者を物品扱いにし、手段を選ばず濡れ手で粟を掴みたいという一部の狂信的な金融資本主義者達の他を顧みない独善的な行為が最も問題なのです。彼らのチキンレースのような行為の先に何が待ち受けているかは常人であれば自明なはずですが、とはいえ、歴史上同じようなことが繰り返されているのも事実です。

イギリスは「ビックバン」により金融資本主義のグローバル化を強力に推進させて行く一方、それとほぼ同じ頃 ISO 9000s の前身となった BS5750 (アメリカの品質規格を元にして作成された)を取りまとめ、グローバルスタンダード化に寄与してきました。これらの経緯をみると、イギリスは「ジキル博士とハイド氏」のような強い二面性を持っていることが見て取れます。

日本には江戸時代に近江商人によって始められた「三方よし」という商いの基本ともいべき理念があります。いわゆる「売り手よし、買い手よし、世間よし」ということです。商取引においては当事者の売り手と買い手だけでなく、その取引が社会全体の幸福につながるものでなければならないという意味です。200年、300年と続いている本物の老舗では、この「三方よし」の理念をそれぞれのやり方で具現化しています。今回の金融危機を招いた狂信的な金融資本主義者達の認識の対極にある崇高な理念だと思えます。こうしたことを踏まえながら改めて ISO 9001 規格をひも解いて行くと、この規格のベースには「三方よし」の理念が反映されているのではと思うようになりました。

顧客の要求に真摯に対応し、企業として適正な利益を享受するとともに、雇用の機会の提供や外注先や資機材購入先との共存にもつながって管理を実施して行くマネジメントシステムは、正しく現代版「三方よし」ではないでしょうか。審査員は個々の組織において、そのマネジメントシステムのもと「三方よし」が健全に機能しているか否かを客観的に判断することを求められているといっても過言ではなく、その社会的責任の重さを改めて痛感しています。

◆◆◆ 事務局から ◆◆◆

【定例総会・理事会】

◆ 定例総会

4月25日に開催、東京都宛の年度会計報告の準備、昨年度の活動の総括、会計報告、各種活動の状況報告がありました。

◆ 理事会開催

4月25日、9月4日に理事会を開催、各種体制の整備、運営方法、今年度の活動計画及び管理について、討議を続けました。

【ASQ 年次大会】

“World Conference on Quality Improvement” (WCQI)
5月22日～5月26日にアメリカ ミズーリ州セントルイスで開催。三浦理事長が参加。(本号1頁参照)

【講習会】

◆ CQA必勝合格講習会

日時：2010年5月8-9日(土、日) 10:00～17:00

会場：目黒区下目黒住区センター

講師：三浦昭夫 (IQAI理事長)

(次回は10月16-17日に上記会場で開催します。)

◆ QA監査士の特別講習会及び認定試験

日時：2010年5月8-9日(土、日) 9:00～17:00

会場：目黒区大岡山西住区センター

講師：三浦昭夫 (IQAI理事長)

認定試験は2日目の午後に行われました。

【ASQ資格試験】

◆ 6月5日(土)の試験(目黒区で実施)の合格者

- CQE (Certified Quality Engineer, ASQ公認品質技術管理士)：都築臨太郎 (本号2頁参照)

- CQA (Certified Quality Auditor, ASQ公認品質監査士)：佐藤美由紀 (IQAI 会員) (本号3頁参照)、
Gary Wrightsman

- CCT (Certified Calibration Technician, ASQ公認計量管理士)：Alex Guzman

◆ 10月2日(土)の試験の予定

- Six Sigma Black Belt, BioMedical Auditor (医療機器

監査士), Quality Technician (品質管理担当者)

-場所：目黒区住区センター

◆ 12月4日(土)の試験の予定

- CQE, CQA, CSQE, CSSGB (Six Sigma Green Belt)

-場所：目黒区住区センター

(IQAI 事務局)

編集後記

今回は ASQ の公認資格試験受験の合格者の記事を 2 件載せることができた。当会会員の佐藤美由紀さんは日本人女性では二人目の CQA 合格者で、今後本物の Quality Engineer として活躍が期待される一方で、CRE、CQE を立て続けに合格された都築臨太郎氏が記事の中で心配されているように、CRE、CQE は過去 1 年の合格者数が中国、韓国が 3 桁 (100 名以上) であるのに、我が日本は極く僅か (1 桁) である。都築氏の懸念の如く、ASQ 有資格者数はグローバル化の時代にそれぞれの国の将来を暗示しているのかも知れない。最近の日本企業のアンケートで、海外赴任を希望しない社員は約 70 % にも及び、その 90% は言葉が話せない不安とのこと。1980 年代の海外赴任に喜び勇んで飛んで行った時代からは隔世の感がある。日本人はすっかり内に籠ってしまい、発展途上国からもバカにされているのではなかろうか。

石原隆昌氏の記事「マサカ」が「マサニ」で述べている通り「日本衰退」は目を覆う状態である。グローバリゼーションの時代にナショナリズムを強調するつもりはないが、中国との尖閣列島問題における日本政府にこそ、土平亘氏の「リスク管理」が必要ではなかったか。日本はこれでよい筈がない。ISO 9001 は今や中国はダントツになっているという現状で、当会は世界に向け日本発の「QA 認証制度」の計画に拍車がかかっている。

水本光春氏の日本古来の真の「三方よし」とするには、現行の ISO 9001 に不足している「買い手よし」を「QA 認証」で補完することが重要であると考えている。特に ASQ 公認有資格者には「QA 監査士」として活躍していただき、日本の閉塞感を打ち破って行きたいと願っている。(岩佐允勝)

発行人：NPO法人 国際品質保証協会 (IQAI)
理事長 三浦 昭夫
Tel.: 03-3712-6776; Fax : 03-3712-3399
住 所：東京都目黒区下目黒 3-24-14-703

連絡先：事務局
佐藤 央英 E-mail : yoshihide_sato@edwards.com
Website: http://www.iqai.org
機関誌発行 / 頒価 : 年 2 回 / 年間 1000 円